

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成26年4月24日 (2014.4.24)

【公表番号】特表2012-505722(P2012-505722A)  
 【公表日】平成24年3月8日 (2012.3.8)  
 【年通号数】公開・登録公報2012-010  
 【出願番号】特願2011-532255(P2011-532255)  
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/68 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/58 3 1 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年2月25日 (2014.2.25)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 6】

具体的な実施態様では、ネジがネジ孔内に螺入されるや否や、ネジをネジ孔内に係止するために、概ね円筒形の頭部上に配置されるネジ山の部分をネジ孔の内表面上に配置される一対のネジ山と干渉するよう構成し得る。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

具体的な実施態様において、当該方法は、概ね円錐形の頭部上に配置されるネジ山の部分が、ネジ孔の内表面上に配置される螺旋形の一対のネジ山と干渉し、ネジをネジ孔内に係止するよう、ネジをネジ孔内で回転することを更に含み得る。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 2】

係止ネジ 2 0 0 を使用して固定プレート 3 0 0 を骨 1 0 2 に固定するために、外科医は、ネジ山付きネジ孔 3 0 2 の 1 つを通じて係止ネジ 2 0 0 を骨 1 0 2 内に挿入し得る。ネジ孔 3 0 2 の中心軸 3 0 3 と平行に或いは中心軸 3 0 3 に対してある角度で係止ネジ 2 0 0 を挿入し得る。特定の手順において、外科医は、係止ネジ 2 0 0 のための軌道を構築するために、骨 1 0 2 内にパイロット孔を事前穿孔し得るし、或いは、設計に依存して、係止ネジ 2 0 0 は本来的に自動穿孔的であり、骨 1 0 2 内の事前穿孔孔を不要にし得る。何れの場合にも、係止ネジ 2 0 0 の先端部 2 0 6 が骨 1 0 2 と接触するや否や、外科医は、係止ネジ 2 0 0 の頭部 2 0 2 がネジ孔 3 0 2 の内表面を圧迫するようになるまで係止ネジ 2 0 0 を骨 1 0 2 内にネジ込むよう、ネジ回し又は他の適切な器具を使用し得る。具体的な実施態様において、頭部 2 0 2 の下面及びネジ孔 3 0 2 の内側の両方は、係止ネジ 2 0 0 がネジ孔 3 0 2 と係止可能に係合するようネジ山付きであり得る。その場合には、こ

の時点での係止ネジ 2 0 0 の更なる回転は、頭部 2 0 2 のネジ山付き部分をネジ孔 3 0 2 の内側のネジ切り (threading) と干渉させ且つネジ 2 0 0 をネジ孔 3 0 2 内に係止させる。係止プレート 3 0 0 が骨 1 0 2 に堅固に取り付けられるまで、如何なる適切な数の係止ネジのためにも、上述のプロセスを繰り返し得る。骨プレート 3 0 0 が骨 1 0 2 に固定されるや否や、骨 1 0 2 の上の切開を閉じ、患者が治癒するのに任せ得る。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 9】

不均等な硬さを有する 2 つの材料からネジ 2 0 0 及びプレート 3 0 0 を形成することによって、上述の変形プロセスを補助し得る。例えば、ネジ孔 3 0 2 の内側のネジ切りがネジ山 2 0 8 及び谷底 2 1 6 に食い込むのを可能にするようプレート 3 0 0 よりも比較的柔らかい材料でネジ 2 0 0 を形成し得る。代替的に、プレート 3 0 0 よりも比較的硬い材料でネジ 2 0 0 を形成し得る。その場合には、ネジ孔 3 0 2 の内側のネジ切りは、ネジ山 2 0 8 及び谷底 2 1 6 に対して変形し得る。何れの場合にも、頭部 2 0 2 上のネジ切りとネジ孔 3 0 2 内のネジ切りとの間のネジ切り可能な干渉によって、所望の係止効果を引き起こし得る。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 1】

プレート 3 0 0 とネジ 2 0 0 との間の上述の所望の係止効果は、ネジ孔 3 0 2 の内側のネジ切りと頭部 2 0 2 上のネジ切りとの間の干渉に主として依存し得るので、頭部 2 0 2 は、シャフト 2 0 4 の大きさと無関係にネジ孔 3 0 2 と係止可能に係合し得る。よって、シャフト 2 0 4 は、事実上、如何なる構成 (例えば、完全なネジ山付き、部分的なネジ山付き、自動ネジ山付き、ネジ山なし、長い又は短い) をも有し得ると同時に、頭部 2 0 2 とのその接続の故に、プレート 3 0 0 と係止可能に係合する能力を依然として維持する。